

日	本	の	生	活	を	支	え	る	建	設	業									
日	々	の	人	々	の	生	活	は	、	土	木	技	術	に	よ	っ	て	支		
え	ら	れ	て	い	ま	す	。	毎	日	の	通	勤	・	通	学	、	時	に	は	
遊	び	に	行	く	時	に	使	う	道	路	。	蛇	口	を	ひ	ね	れ	ば	、	
当	た	り	前	の	よ	う	に	出	て	く	る	水	道	等	は	、	全	て	建	
設	業	の	人	達	に	よ	っ	て	造	ら	れ	ま	し	た	。	建	設	業	は	、
過	酷	な	環	境	の	イ	メ	ー	ジ	が	強	く	、	あ	ま	り	人	気	の	
な	い	職	業	の	よ	う	な	気	が	し	ま	す	。	で	も	、	僕	は	人	
々	の	生	活	を	支	え	る	仕	事	が	し	た	い	と	思	い	、	工	業	
高	校	の	建	築	・	土	木	科	に	進	学	し	ま	し	た	。	自	分	の	
関	わ	っ	た	仕	事	で	、	多	く	の	人	達	の	役	に	立	て	れ	ば	
と	て	も	す	ば	ら	し	い	こ	と	だ	と	思	っ	て	い	ま	す	。	一	
般	的	に	土	木	と	建	築	の	違	い	が	分	か	る	人	は	少	な	い	
と	思	い	ま	す	。	僕	も	高	校	に	進	学	す	る	ま	で	は	、	理	
解	で	き	て	い	ま	せ	ん	で	し	た	。	高	校	で	多	く	の	こ	と	
を	学	び	ま	し	た	。	建	築	は	自	分	で	設	計	し	た	家	や	、	
マ	ン	シ	ョ	ン	な	ど	、	長	期	間	に	わ	た	っ	て	使	わ	れ	、	
そ	し	て	、	多	く	の	人	の	目	に	付	く	物	を	造	る	と	い	う	
魅	力	が	あ	る	。	し	か	し	、	僕	は	日	本	が	世	界	に	誇	る	
鉄	道	の	建	設	に	興	味	が	あ	っ	た	の	で	、	2	年	生	で	の	

選	科	で	は	土	木	科	を	選	び	ま	し	た	。	土	木	・	建	築	ど
ち	ら	も	、	人	々	の	生	活	に	欠	か	す	こ	と	の	で	き	な	い
物	を	造	っ	て	い	る	建	設	業	は	と	て	も	魅	力	の	あ	る	仕
事	だ	と	思	っ	て	い	ま	す	。										
	将	来	、	僕	は	や	っ	て	み	た	い	仕	事	が	あ	り	ま	す	。
そ	れ	は	、	地	下	鉄	工	事	で	す	。	シ	ー	ル	ド	と	い	う	、
と	て	も	大	き	な	機	械	で	ト	ン	ネ	ル	を	掘	り	、	線	路	を
敷	き	、	一	つ	の	路	線	を	造	り	あ	げ	、	そ	し	て	、	自	分
が	作	っ	た	地	下	鉄	に	乗	る	と	い	う	、	大	き	な	夢	を	持
っ	て	い	ま	す	。	こ	れ	に	限	ら	ず	、	建	設	業	の	仕	事	に
は	夢	が	あ	り	ま	す	。	自	分	で	造	っ	た	物	が	、	多	く	の
人	々	の	生	活	の	支	え	と	な	り	、	そ	し	て	、	そ	の	物	を
造	っ	た	の	は	自	分	達	で	あ	る	と	い	う	、	満	足	感	を	味
わ	え	、	や	り	が	い	の	あ	る	仕	事	で	あ	る	と	思	っ	て	い
ま	す	。	卒	業	後	は	自	分	の	夢	の	た	め	に	、	建	設	業	で
働	き	た	い	と	も	思	っ	て	い	ま	す	。							
	今	回	、	僕	は	東	北	で	起	き	た	震	災	で	、	こ	ん	な	考
え	が	湧	き	始	め	ま	し	た	。	「	建	設	業	は	人	の	命	を	守
る	こ	と	は	で	き	る	の	だ	ら	う	か	？	」	と	。	今	回	の	東
日	本	大	震	災	で	、	一	万	人	を	超	え	る	人	々	が	亡	く	な

りました。地震に津波と叫んだ、自然災害か  
 ら建設業は命を守ることができなかつたのだ  
 ろうか、と思うようになりました。強固に造  
 った堤防もあっさり破壊され、港も壊滅的な  
 被害を受けた。人の命を守ることができず、  
 それどころか、一万人を超える多くの人々が、  
 亡くなつてしまふという現実。自然の力に無  
 理に逆らわず、受け止め、力を和らげるよう  
 なものを作つた方が良い気がします。  
 この震災では、建設業の災害復旧への対応  
 はとても迅速で、素晴らしいものがありまし  
 た。ライフラインの復旧作業や、仮設住宅の  
 建設、地殻変動の調査など、多くのことを行  
 なつていました。日本はこの東日本大震災か  
 ら、建設業に限らず、多くのことを学んだの  
 だと思ひます。今まで以上にやらなければい  
 けないことや、これからやつていかなければ  
 ならないこと、課題は山積みだと思ひます。  
 しかし、僕はこの建設業が好きだから、高校  
 を卒業したら、絶対に建設業に就きたいと思

っています。

半田工業高等学校 土木科 2年

斉藤 匠 (さいとう たくみ)